

## 会議録

### 1. 開会

### 2. 話題

(市長)

本日は、お忙しい中、今年度第 1 回目の定例記者会見へお越しいただきまして、ありがとうございます。まず、5月3日に支笏湖において水難事故が発生いたしました。大変残念な事故であり、事故に遭われた方の一刻も早い回復をお祈り申し上げたいと思います。

支笏湖において、楽しく安全に過ごしていただくために、平成4年に「(一社) 国立公園支笏湖運営協議会」が支笏湖の地形、天候の特性やライフジャケットの着用促進などを定めた「支笏湖ルール」を策定し、利用者の皆様に広く周知を図っているところであります。今後も運営協議会のほか、環境省等の関係機関と協力しながら、「支笏湖ルール」の周知徹底をし、引き続き事故防止に向けた啓発に努め、支笏湖のより安全な利用促進を図ってまいりたい、このように思っております。

それでは、本日は5点についてお話をさせていただきたいと思います。

#### **(1) 千歳市空港開港 100 年記念事業について**

4月15日に「令和6年度 第1回 千歳市空港開港 100 年記念事業 実行委員会 総会」が開催され、令和6年度の事業計画が審議・決定されました。

この実行委員会は、本年2月に、航空自衛隊や市など全36団体により設立され、令和8年の空港開港 100 年に向けて、機運の醸成を図る事業や、次世代の子どもたちが、空港・航空に興味関心を持ち、「空港があることの誇り」を後世に伝える事業の実施などを検討しており、令和6年度は、空港開港 100 年記念事業で使用するロゴマーク及びキャッチフレーズの決定や、決定したロゴマーク等を活用した啓発物品の作成などを計画しております。

なお、5月20日までにロゴマーク等を募集しておりますが、本日5月7日現在で、市民をはじめ全国各地からロゴマーク 137 件、キャッチフレーズ 1135 件のご提案をいただいているところであります。

また、空港開港 100 年に向け、すでに市民団体等による取り組みとして、3月には、主に市内の子どもたちを対象として、空港内の見学ツアーや遊覧飛行、航空教室等も開催されており、今年度におきましても、機運の醸成に向けた取り組みが多数計画されております。

市としましては、今後も、空港開港 100 年に向け、機運を醸成し、記念となる節目をま

ち全体で祝賀できるよう、市民をはじめ、実行委員会と連携して、記念事業の準備、検討を進めてまいります。

## **(2) 遊びの広場「いろいろ」について**

遊びの広場「いろいろ」は、千歳市児童発達支援センターが、地域における中核機関として新たに実施する、子育て支援・障がい児支援の取り組みの一つで、毎月第2金曜日に、児童発達支援センターや児童館を含む、子育て支援センターを会場に開催します。

小学校就学前のお子さんと保護者を対象に、児童発達支援センターの専門スタッフが、お子さんと遊びながら、お子さんの発達面に関しての行動や子育ての悩みなど、保護者のお話をお聞きます。できるだけ丁寧に対応させていただくため、毎回5組程度の予約制としています。

市といたしましては、児童発達支援センターに、気軽にご相談いただけるよう、本事業を通じて適切な支援につなげてまいります。

## **(3) 千歳駅西口広場における花壇の整備について**

市では、千歳駅西口広場の改修に合わせ、市民や観光客のみなさんに親しまれ、千歳駅のシンボルとなるような花壇の整備に取り組んでおり、4月1日には、花壇内に配置する「CHITOSE」の箱文字を公開したところであります。

まずは、花壇整備に向けたこれまでの取り組みや、花壇のコンセプトなどについて説明いたします。千歳駅西口広場では、これまでボランティア活動として「千歳花倶楽部」の皆さんにより、花壇の整備や管理が行われてきました。場所は、左側「整備前」の旧花壇となります。昨年度から実施している千歳駅西口広場の再整備で、広場の中央にあった花壇は無くなりましたが、再整備後の西口広場内には、新たに「中島」が出来たことから、「千歳花倶楽部」のみなさんに協力を頂き、右側の「整備後」図面の場所に、新たに整備をすることといたしました。

次に、花壇整備の具体的な考え方についてであります。花壇のスローガンや形状、植栽する樹木や花の種類、配置などについては、「千歳花倶楽部」を中心に、千歳高等学校の生徒やJR北海道、千歳市内郵便局などの9団体により組織した「千歳スクエアの会」において検討を進め、スローガンについては、「花と緑で、千歳駅前のシンボルづくり」“ようこそ千歳、人をつなぐ手づくり花壇でお出迎え！”～ 行ってらっしゃい & おかえりなさい ～としたところであります。

花壇は3つのゾーンに分けて整備を行うこととし、①の左側、ここは通勤や通学などによ

り、駅に向かう方々に見て頂くことをイメージし、「行ってらっしゃい」のイメージや気持ちを込めたゾーン、②のピンク色、この真ん中の部分は花壇の中心ということで千歳市の顔である「千歳駅」に降り立った方々を、彩り豊かな花でお出迎えをする、「ようこそ千歳」の気持ちを込めたゾーン、③の青の部分、こちらは JR 千歳駅方向の場所となりますが、駅から出て家路に向かう方々へ「おかえりなさい」のイメージや、気持ちを込めたゾーンとして、整備を進める予定であります。

次に、植栽計画の平面図プランについては、このような配色による花壇の整備に向け、準備を進めているところであり、各場所をこのエリアの中でいろいろ色とりどりの花が季節によって楽しめる、そういう準備を進めています。現在、高木や中・低木、宿根草を植栽する工事を行っております。メインとなる「ようこそちとせゾーン」の一年草については、5月25日に花植えを行いますので、メディアの皆様には、是非、取材をして頂きたいと思っております。

次に、箱文字についてであります。バックが、「千歳ステーションプラザ」の白となることから、原色系の色使いをすることとし、千歳駅は、人と人が繋がる場所であり、その繋がりを大切にすることを表現するため、「CHITOSE」の中にある「HITO（人）」の部分を支笏湖ブルーや、空港を連想させる「青」色にしたところであります。植栽後にはこちらのイメージ図のような花壇となることを想定しています。

#### **（４）次世代半導体関連事業の進捗について**

次世代半導体関連事業の進捗について、2点、ご説明いたします。

1点目は、工場等の進捗状況についてであります。まず、製造工場「IIM-1」建設工事については、地上躯体工事、内装・外装工事、設備工事などが進められており、本日時点において、現場には、1,700～1,900人の作業員が従事しております。工事全体の進捗率としては26%、建設スケジュールどおり順調に進んでいると伺っております。

なお、建設に従事する作業員の最新の状況につきましては、本年3月に立ち上げました、本市『半導体情報ウェブサイト』にて、「毎週」更新しておりますので、ご確認いただければと思います。

次に、道路や下水道などのインフラ整備の進捗についてであります。市では、令和7年4月の、ラピダス社の半導体製造工場の試作ライン稼働に合わせまして、「上水道」の整備については、昨年6月に、資材、設計、施工業者によるJV契約を締結し、本年度中の通水を目指し、順調に工事を進めております。工場周辺の「道路工事」については、昨年度、設計を実施し、逐次、工事の発注を行うほか、工場からJRを横断し、国道36号に接続する

「美々南通跨線橋」については、令和6年3月に、北海道と「道路整備に伴う調査設計及び工事に関する基本協定」を締結し、現在、北海道で調査設計を進めているところであります。このほか、工業団地の開発に必要な「調整池」の整備について、工事請負契約を締結したところであります。

さらに、令和9年に予定している、半導体製造工場の量産稼働に合わせまして、「下水道」については、「浄化センター」の拡張工事及び「美々ポンプ場」の設計の委託契約を締結したほか、美々地区から浄化センターまで、総延長約9.5kmの「圧送管」の整備をDB（デザインビルド）方式で公告したところであります。全ての工事が非常にタイトな工程となっておりますが、スピード感を持って全力を挙げて取り組んでいるところであり、予定どおり現在進んでおります。先端半導体の製造技術は、技術革新のサイクルが早い上、本件は、国の経済安全保障にも関わる、重要なプロジェクトであると認識しており、地元自治体としては、引き続き、スピード感をもって対応し、この国家プロジェクトが円滑に進むよう取り組んでまいります。

次に、2点目は、半導体関連企業の本市への立地状況についてであります。昨年2月の、ラピダス社による立地表明以降、9月に、半導体製造装置内の配管や、関連部品の製造等を行う「株式会社 テクノウェル」が「千歳臨空工業団地」に立地したほか、本年4月に、半導体製造装置の保守業務等を行う「株式会社 内外テック」及び、その子会社である「内外エレクトロニクス株式会社」が、また、製品や材料の受託分析・解析サービスを行う「一般財団法人 材料科学技術振興財団」が、それぞれ市内にサービス拠点を設置することを発表されたところであります。本市といたしましては、今後も、きめ細かな企業ニーズの把握などを通じて、半導体関連企業の集積に向けて取り組んでまいります。

#### **（5）プレスリリースのデジタル化について**

市政記者クラブに加盟する報道機関への情報提供、いわゆるプレスリリースにつきましては、これまで、紙ベースの資料を、記者室の棚に配付する方法で行っており、令和4年度は、1,665件の情報をリリースしておりましたが、このたび、情報提供の迅速化とペーパーレス化を図るため、これをデジタル化し、今後については、クラウド上で、資料提供を行うこととします。実施は5月中旬を予定しており、準備が整い次第、担当から詳細を説明した上で、各報道機関に必要な数のIDを発行いたします。

なお、クラウドの使用にあたっては、日付ごとのフォルダーに情報を整理するなどし、探しやすく、使いやすい環境となるよう配慮してまいりますので、これまで以上にご活用いただければと考えております。

### 3. 質問及び意見交換

(記者)

ラピダス社の関連でいくつかお伺いします。新しい工業団地の測量と、用地計画の予算が3月に成立して、準備を進められているところだと思いますが、ここまでの測量と用地計画の策定は、どのような進捗で進んでいるのか、現状をお伺いできますか。

(市長)

測量等の調査関係につきましては、国の土地ということを念頭において協議を進めるために必要となる作業の一つと捉えており、発注済みで作業に入っております。現地に作業が入りつつあるという段階だと思しますので、成果を見て、また協議を進めていくということになると思います。

(記者)

次のステップの目途はどういう計画、目標で進めていらっしゃいますか。

(市長)

発注した部分の調査については、一定の工期設定をしていますので、それをもとにこれから協議をしていくこととなります。その後についてはスケジュールもありますので、まだそこまで言及できる段階にはありませんが、関係機関、国の方に鋭意協議を進めてまいりたいと思っています。

(記者)

半導体関連事業の進捗について、1,700人から1,900人ということで、人数も増えてきて、進捗も4分の1を超えたところです。改めて現時点で、感じていらっしゃる作業員の方に関係する経済効果や、市内の交通において、課題に感じていることと、対応をしていきたいと考えていることを教えてください。

(市長)

交通の関係については、まだ作業員の方々のピークはこれからと伺っていますので、例えば現地で交通が混雑するとか、そういうことはお聞きしておりませんし、また、発注を請け負っている鹿島建設をはじめ、輸送面でも配慮していただいているということでもあります。

ので、今後もそのようにしていただきたいと思います。作業は夏から秋口にかけてピークを迎えると聞いていますので、建設本体、それに加えて進捗に伴い、設備関係の部隊が入ってくるようになりますので、そのような段階でピークを迎えていくと思っています。それに伴って、まちの受け入れ環境を民間の方にもご協力をいただきながら、またそれぞれ自社で用意しているところもありますので、工夫をし、色々な手法をとりながら、例えば住居の考えだとか、あとはまちの受け入れ環境、これも民間と一緒に連携しながらやっていきたいと思っています。

(記者)

3月の議会でも出ていました給食費の保護者負担の見直しの部分で、先日の委員会のほうでも説明があったとおり、今後7月の予定だったものを再検討するというようなことを議会で表明されて、今回、さらに来年度という方針が委員会で説明があったところだと思えます。迅速なご決断だったと思うのですが、お考えに至った経緯と保護者の方、子育て世帯の方への思いのようなものがあればお聞かせいただきたいと思います。

(市長)

この件については、先の定例会でいろいろなご意見をいただきました。その中で、時期等について改めて検討をし、教育委員会とも相談するというので、ここまで来ましたけれども、その後、教育委員会とも相談しながら、現在の状況を改めて確認して、もう少し丁寧に保護者の皆さんにも説明する期間をお取りした方がいいだろうということもあり、物価高騰の関係もありますので、そういう状況を踏まえ、7月としていたものを来年の4月まで延期をするということで、先達ての所管委員会の中で説明をさせていただいたところです。引き続きこの件については、保護者の皆さんに丁寧に説明していきたいと思っています。

(記者)

丁寧な説明が必要とおっしゃったと思うのですが、7月から来年の4月まで延ばすということで、ただでさえ値上げが相次いでいるかと思うのですが、家計負担を少しでも緩和させたいという思いのご決断という理解でよいでしょうか。

(市長)

物価高騰は当然認識をしていますので、そういう部分を踏まえています。物価高騰の部分と、これまでずっと10年ぐらい上げてこなかった物価の伸びのところを市が負担をする部分と、保護者の方々に負担いただく部分と分けをして、今回、保護者負担の部分については来年の4月まで見送るということにさせていただきました。

(記者)

先ほど冒頭でも発言された支笏湖の事故ですけれども、今回事故に遭われた方はおそらく個人の方で、ツアー業者の場合、風速の関係でカヌーや観光船を出していなかったと思います。そういうことは、防ぎようがないのかもしれないですが、改めて支笏湖ルールを見たら、風が強いときは出ることをやめましょうというところまで懇切丁寧に書いてなかったこともあり、今回の事故も含めて、毎年事故が続いているので、改めて啓発の仕方を見直すことや、強化するというような、お考えはありますか。

(市長)

まず、先日あった事故については、現地の状況の正確な部分というのは刻々と気象状況が変わる中で、最初の段階ではそれほど風が強くなく、だんだん強くなってきたと聞いております。千歳ばかりでなく、他の地域でもかなり風が強い日だったというふうに認識しています。4月の湖水開きもありましたし、今回新しく環境省で整備いただいた駐車場の第5地区もあって、その折にもお話ししていますが、今年1年の安全を祈るという、そうしたことがあった矢先でもあるので、私としても非常に残念という気持ちです。現地の方々もいろいろご努力され、運営協議会でも、これまでも支笏湖ルールの徹底ということでやっていただいておりますので、やれることは強制力というより、最後は個人の判断ということに結局なるのですけれども、そうなる前に支笏湖の特性だとか、そういった共通のルールというのを今一度周知徹底していただくということは、運営協議会の皆様方ともお話をさせていただいています。今言われた部分でもう少し何かをプラスアルファで記載する必要があるかどうかも含めて、これから地元の方、運営協議会でよく相談をしていきたいと思っています。

(記者)

千歳市内の路線バスについてです。先月4月から、千歳相互が2路線を他者に譲渡されたということがありましたけれども、全国的に路線バスの運転手不足などの問題をこのまちなも含めて多く抱えている中、市長としてはどのように考えていらっしゃるのかということ

と、引き続き市内の交通網を守るべく、どのようなことをこれからしていきたいとお考えでしょうか。

(市長)

まず、公共道路線バスは、これは私が職員の時代からまちづくりの基盤となるものと考えており、公共交通なくして市民の足は充足できない、市民生活に本当に影響があるということに力を入れてきています。この気持ちはこれからも変わらずにやっていきたいと思っています。そういう中で、今回、残念ながら路線が全て既存の会社で対応できないということで、新たに2社新規で入っていただいたということは、まちの状況を踏まえ、今後もそこで企業活動していくことを各事業者の皆さんが考えて参入していただいたということで、うれしく思っています。運転手不足がありますが、地道な運転手の方々の育成や募集、市としてバス会社や事業者の皆さんと連携できることをやりながら、新たな取り組みとして今年、向陽台の自動運転などを行っていますので、これらも含めてこれからも公共交通について取り組んでいきたいと思っています。

(記者)

協和地区産廃処分場問題について幾つかお伺いしたいのですが、昨年の市議会の中でも市長は意見を述べられておりましたけども、改めて、協和地区の皆さんがその建設に反対をされているということで、市としての立場や、受け止めをお願いします。

(市長)

当該地区については、これまでも色々な経緯がありました。特に産廃問題ということを抱えている場所ですので、地域の皆さん方の意向というのは把握をしているつもりです。これからも地域の意向に沿って、市としてもしっかりと対応していきたいというふうに考えています。

(記者)

処分場を建設する場合、半径500メートル以内の方にはきちんとした説明や同意がないままに事業を進めることはできないと思うのですが、その中でそういったことがないまま道に建設計画が提出されたということに関して、市長のお考えをお聞かせください。

(市長)

これはもう既に申し上げているとおり、やはりそのこと自体については遺憾に思っています。地域の皆さんの同意なり理解が得られないまま手続きが進むこと自体が、これはいかなものかなと思っていますので、引き続き意向に寄り添って対応していきたいと思っています。

(記者)

この件で、市としては、これから道の方に何を求めていますか。

(市長)

色々な段階に応じて手順というのがあると思いますので、具体的に、例えば定められている手順の中で意向を既に伝えている部分もありますが、必要な段階に応じて北海道への働きかけをしていきたいと思っています。

(記者)

長谷川参議院議員を巡る発言の対処の仕方が、特に一時期、道内の自治体で話題になりましたが、特に DX 分野にその人脈と知見をお持ちであり、千歳市の今後に非常に関連が深い分野でもあります。千歳市と長谷川議員との関係で、例えば今まで市長がお聞きになった時点で言われすぎだなというようなケースはあったのでしょうか。

(市長)

基本的にはそういうことがないと思っています。いろいろな報道で今回の部分については私も承知をしておりますし、実際、他の報道を目にしておりますけれども、本市におきまして、基本的に国会議員への対応は、私と副市長が対応しているのが基本となっております。直接担当者が対応することはほぼないと思っています。場合によっては、我々が話をする時に同席をさせる場面はありますが、基本的には私が中心に対応していきます。改めて確認はしておりますけれども、そういう言動や、過度な他人に対する聞き取りはないということで、念のために確認をしているということでもあります。これまでも長谷川議員に限らず、他の議員の皆さんには、本市の抱える色々な課題だとか、本市も色々な協議会にも属しており、私も協議会として会長の立場で要望、運動したり、そういった部分の関わりというのはありますけれども、その際に、例えば資料づくりだとか準備などの業務を行ったりはしておりますが、過度に依頼されるということはほぼないです。たまに確認がありますが、それ以上の対

応はないと受け止めております。

(記者)

例えば札幌市の場合、今後、長谷川議員と会う時は一時的かもしれませんが、発言内容を録音をするなどの対策をとられると思いますが、千歳市はそこまでは今後必要ないというお考えでしょうか。

(市長)

本市としてはそういうことは考えていません。

(記者)

次世代半導体の関連で、例えば発表されていた、地価公示もそうですが、千歳市の宅地のみならず、全体的に市内の地価が高騰しているという状況だと思います。先行する熊本県の菊陽町のように、元々住んでいる住民の皆さんが税金を払えなくなるほど上がってしまって、先行きどうなるだろうみたいな不安というのが、千歳にお住まいの方はお持ちだったり、あるいは肝心の不動産業者の皆さんも、どこまで上がるのか、どうやって沈静化したらいいか分からないというような状況です。当面、市長はどのように課題として受け止めて、今後どのようにされるのでしょうか。特に営業の終了を表明されたレラの跡地を今後どうするかによっても、かなり振れ幅が大きくなるおそれがあるのですが、その辺の対策について、市としてのお考えを伺いたいです。

(市長)

まず、レラの話は、これは前にもお話ししましたように、新たな契約や、入居は行わないということをお聞きしています。ただ、中に入っているテナントも契約期間がそれぞれ一律ではないので、それに伴ってだんだん空き店舗というものが増えていくということになります。今後の状況については、管理運営しているところと、まずはいろいろコンタクトをとりながら、引き続き情報収集に努めていきたいと思っています。レラについては、今のところそういうことになります。それと、市内の宅地については、商業地と宅地だとか、もう一つの大きなくくりでは工業用地というのはあるのですけれども、特に商業地が駅中心に高くなってきているということで、それはやはりいろんな民間企業の取引だとか、そういうことでの相対的に上昇しているというふうには受け止めていますが、その価値に見合った以上の価格になるというのは、どうかなと思っています。事業展開に支障が起きないようになれ

ばよいというふうに思っています。特に住宅地についても同じようで、それに引っ張られる形でその土地の価格、価値以上に必要以上に高騰してしまうと、やはり新しく住宅を建てようとする方、特に土地代だけではなくて、資材費も上がっていますので、坪当たりの単価ということになると、なかなか厳しい状況になっているのは認識をしています。そういう部分からすると、市場経済に行政が入っていくというのはなかなか難しい部分がありますが、宅地については不足をしないように、できるだけ供給量を増やすようにこれまでもしてきましたので、今後のニーズに合わせて、そこをしっかりと把握をしていかなければなりません。宅地については供給をできるようにしていきたいと思っています。今現在、おかげで既に大和の市営住宅の跡地や、富丘の市営住宅の跡地、新しく区域に編入をして造成を開始したところ、かなり家が建ってきております。そういう現状も引き続き私も確認をしながら、これから住宅政策ということで、土地の部分に対応していきたいと思っています。

(記者)

主に例えば道内の方、近隣の道民の方が新たに土地を求めて家を建てようという方でも、どちらかという本州の、しかもどちらかという大きな資本を持っている会社が投機的に千歳の主に商業地、あるいは将来の値上がりを見越して、その宅地の方に手を出しているという状況もかなり目立ってきていると思うのですけれども、その辺は規制は難しいでしょうか。

(市長)

なかなか規制というのは法律的にも難しい部分もありますが、そういう部分からすると、早目に千歳市としての、特に今回、半導体という一つの新たな要素が入って、これからどういうまちづくりをしようとしているのか。既に総合計画というのがありますけれども、やはり喫緊の課題として、特に今回の半導体を受けてまちをどうしようとしているのかというのを内外に早めに示すことが大事なことだと思い、そのために今回、ビジョンづくりということを鋭意進めています。今年早期に示すことができるように努めていきたいと思っています。それを逆に民間の方々には理解をしていただいて、そういうのを汲み取って、企業活動をしていただければというふうに思っています。

(記者)

ビジョンづくりを急ぐと捉えてよろしいでしょうか。

(市長)

年内にということでお示しをしておりますが、どこかで、いずれにしても一部中間報告をしていく必要がありますので、これは段階で示していきたいというふうに考えています。

(記者)

長谷川参議の質問関連で確認をされたとお話をされてはいますが、どういうところを対象にどういった確認をされたのか、もう少し具体的にお聞きます。

(市長)

副市長の方から、各部長職に、口頭になりますけれども、確認をしたということです。

(記者)

どういった内容を確認されたのでしょうか。

(市長)

報道にあるような事実、例えば言動や、過度な対応、実際直接対応していることがあるのかどうか、それらを確認しました。元来、対応は基本的に私どもでしているということになります。そのため、念のための確認ということです。

(記者)

その結果、報道にあるような過度な叱責の有無など確認されなかったということですか。それはいつくらいの時期ですか。

(市長)

4月に入って報道があってもなく、確認をしなかったというより、そもそもそういう対応をしていないので、対応は私もしくは副市長が行うということで、念のための確認をしました。

(記者)

これまで、例えば部長職も含めて、市長、副市長以外の方が長谷川参議と直接やりとりするようなことは基本的にはないということでしょうか。

(市長)

はい。

(記者)

今後もその方針で、継続して市長か副市長ということになって、特別な対策は必要ないと考えている。そのあたりはどうでしょうか。

(市長)

その案件がどういう案件になるかわかりませんが、基本的には私もしくは副市長が対応するということになると思います。

(記者)

前の質問であった路線バスの関係で、昨年秋の弊社インタビューの際にも、向陽台に行く  
と千歳駅発の最終バスが 10 時 35 分から 40 分ほど繰り上がったと昨年 1 月の減便の時点  
でありました。残念ながらこの 4 月、さらに最終バスの時間が繰り上がり、最初の時より  
も 1 時間くらい時間が早くなり、住民の方からも大変困っているという話がありました。  
一方、組合の意見ということなので、事業者側がどういうふうにおっしゃるか分かりませ  
んが、ドライバーが、その時間帯に乗ることができないというような主張をされており、公  
共の路線バスであり、千歳市も補助金を出している関係もあり、活性化協議会の中でも、特  
にその部分が厳しく、例えば詳細を詰められるような場面を見られませんでした。例えば  
千歳市として事業者に改めて状況の説明を求めることや、働きかけるというようなお考え  
はないでしょうか。

(市長)

日々いろいろな声をお聞きしながら、公共交通活性化協議会も含め、中身の確認などが一  
番望ましい方法というのは追求していただいていると思います。路線バスもご案内のとおり  
、公共性と採算性と利便性という、この 3 つの原則で常にどういう方法がいいのかとい  
うのを検討しながらやっています。一つだけの意見を捉えて、できるかどうかという判断に  
はなかなかならないと思います。これからも引き続き、いろいろな関係者の声を聞きながら、  
もちろん市民の皆さんからの声を聞きながら取り組んでいきたいと思っています。

(記者)

事実関係として、最終バスが 1 時間ぐらい早まっているという状況について、市が力を入れて開発したニュータウンでいろいろな方が住まわれていると思いますが、その部分についてはどのように受け止めていらっしゃいますか。

(市長)

どれだけ利用される方々がいらっしゃるかということになると思うので、その辺はいろいろな声を引き続きお聞きをしていきたいと考えています。

4. 閉会